

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・連休が2回あったが、その前日はいずれも注文と配達で大忙しだった。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・上旬から「ラグジュアリー（ぜいたく・豪華）」と呼ばれる秋物の流行商品を求める客の動きが良かった。客の購買行動は実用性からファッション性へと変わっており、ファッション関連の単価は例年に比べ2、3割上昇した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・婦人秋物商戦は天候不順のため中旬まで振るわなかったが、終盤は秋らしい天候に恵まれ、旅行スタイルやゲストフォーマルなど目的のはっきりした買物は単価も上昇し、好調であった。しかし、都会の百貨店では今年注目されているトレンチコートや非ウールのコートなどが例年の倍近く売れているのに対し、地方では例年どおりまだ売れていない。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・6月末に近くで上場企業のスーパーが出店し、強力な価格を打ち出しているため、客の買い回り頻度が非常に高くなっている。これからは「質」の競争に移っていく。
	変わらない	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・客室販売数、レストラン利用客数、一般宴会利用客数が増加している。特にレストラン利用客数は継続的に増加しており、景気回復感が見られる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街に面した百貨店の撤退後、通行量が2割程度減少している。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	単価の動き	・9月に入り、数社からコピー用紙の価格見直しの要請があった。大企業を中心に経費削減の姿勢が見受けられる。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・客単価は上昇しているものの、来客数が減少気味である。また、顧客からの要望に強いこだわりが見られ、以前であれば決定していた類似商品でも販売しにくくなっている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数は伸び悩んでいるものの、コートの売行きが前年に比べ早まっているため、客単価が上がり、全体としては前年並みの実績を確保している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・買上点数は伸びているが、来客数は増加していない。チラシ競争の影響を受けて、相変わらず価格が低下している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・商品全体では前年の売上を維持している。部門的に日用品は前年を上回っているが、衣料品は気温の関係で秋冬物が振るわず、前年を下回っている。特に高額品が良くない。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・9、10月は大型店を含む地元スーパーの出店が多く、市場飽和状態の中で競争が激化している。安定的な来客数を確保するため、各店の目玉商品の価格が一層下がっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は微増、客単価は微減の状態が続いている。
衣料品専門店（経営者）		来客数の動き	・春に中心部の大型店が撤退したため、その影響が集客面で徐々に始まっており、当店独自の集客対策が不可欠な状況になっている。	
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・軽自動車市場は伸びているが、登録車市場が良くない。当社では利益車種の普通乗用車の販売が伸び悩み、全体の販売総量が今一つ不足している。		
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・相変わらず登録車が前年割れとなり、ガソリンの高騰もあって軽四と小型車へのシフトが続いている。中・大型車が中心の当社としては大変厳しい状況であるが、修理部門の健闘で何とかしのいでいる。		
自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・地上デジタル放送の拡大に伴い、車載デジタルチューナーへの関心が高まっている。しかし、家庭用テレビの購入が優先されているため、まだ販売量で劇的な変化はない。		

	その他専門店 〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・来客数は既存店で前年比101.7%で、3か月前の増加率とほとんど変わっていない。買上点数は5.0点から5.1点へと若干上昇している。	
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・来客数、客単価共に変わらない。郊外店のため車での来店客が多いが、お酒を飲む人はいないので、飲酒運転の取締り強化による減少は見られない。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量に大きな変化はない。客からの問い合わせは多いものの、旅行内容、金額共に要望が厳しくなっており、観光バス会社からは代金引上げの要請を受けている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月は連休が2度もあったため、タクシー利用は全体としてあまり良くなかった。ただ、最近の飲酒運転事故の続発と警察の徹底取締りの影響を受けて、客の会話から飲酒時にタクシーを利用したいという姿勢がつかえる。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・夏のケーブルテレビ・キャンペーンへの客の反応は薄く、期待した目標に届いていない。	
	その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・平日の来客数は前年並みで推移したが、連休や祝祭日の来客数が減少した。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客は複数の業者を合い見積りで競争させるなど、厳しい対応を迫ってくる。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・アパートからの転居や結婚によるマイホーム取得の引き合いはあるが、所得水準からみて价格的に厳しいため、商談成立まで時間が掛かり過ぎ、成約が伸び悩んでいる。	
	住宅販売会社（総務担当）	お客様の様子	・イベントの集客は前年比で増加したものの、契約に至るまで長い時間を要している。	
やや悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・客は必要なものには出費するが、趣味、娯楽関連には買い控えの様子がみられる。	
	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・週末の天候不順で行楽需要は悪かったが、客が遠出をしなかったため、週半ばの売上は良好であった。月全体の売上は前年比で横ばいであったが、好調な8月との比較では反動で8%減少した。	
	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は変わらないが、買上点数の減少により客単価が低下したため、売上は減少した。例年9月は客の購買態度に夏商品の余韻が残るが、今年は急激にしばらく減ってしまった。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・売上は前年に比べて若干減少している。客の消費態度にも元気がない。	
	住関連専門店（店長）	販売量の動き	・購入動機が新築、増改築、プライダルの客は、必要最低限の買物にとどめ、客単価が上がらない。耐久消費財には景気回復の兆しは見られない。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・中旬までは全く動きがなく、団体客も週に1回程度見られるだけで完敗ムードであった。20日過ぎから少し動きが戻り、ようやく前年の90%程度の売上になった。周辺の飲食店でも客の動きが鈍く、秋風が漂っている。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の新機種が未発売だったこと、番号ポータビリティが近づいていること、価格が低下しなかったことなどの条件が重なり、販売台数に悪影響が出た。	
悪くなっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・8月に新規のショッピングセンターが開業した影響から、週末の来客数が減少している。	
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・ウィークデーだけでなく、土・日曜日のイベントにおいても来客数が激減している。目玉商品にも新規客の反応は鈍い。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・冬物の生産の追い込み数量が増加している。
		司法書士	取引先の様子	・新会社設立、工場・店舗建設等の案件が、若干ではあるが増加してきた。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予想以上におう盛な需要があり、受注が順調に確保できている。
	一般機械器具製造業（経営者）	それ以外	・受注量は前月比20%程度減少しているが、引き合い件数、引き合い金額共に堅調である。また、一時は刃の工具の納期が1、2か月待ちの状態であったが、現状では円滑に納入される状態に改善された。	

	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・材料費の高騰や更なる小ロット化など、眼鏡産地全体では依然として厳しい状態が続いている。
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・ここ1、2か月は原油高騰の影響で燃料費は上昇傾向にあるが、物量は何とか前年実績を確保している。しかし、燃料費増加分を他のコスト削減で吸収することは限界に来ている。
	輸送業（配車担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上が増えた分と軽油の経費増が相殺されている。長距離輸送のコストが増え、利益が出なくなっている。
	会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・ガソリンスタンドでは仕入価額上昇の一部を売値に転嫁しているため、販売金額は増加したが、販売数量が減少しており、減益状態が続いている。
やや悪くなっている	建設業（経営者）	競争相手の様子	・公共工事の落札では、ダンピング入札と思われる物件、低入札価格調査対象物件が明らかに多くなっている。予定価格に比較して20%程度低い価格での落札は珍しくなく、40%以上低い価格での落札も結構見受けられるようになってきた。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ3か月の受注量はすべて前年比で前年を割り込んでいる。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連			
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・派遣業及び販売・サービス業の募集が増加している。新規出店や慢性的な人材不足による求人が目立つ。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年に比べ約1割増加している。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ここ数か月は求人状況に大きな変化は見られないが、近時、4～5日間という短期の派遣要請が目につく。この業務ではパソコンの入力作業が多い。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・業種・業態により異なるものの、全体としては広告量や求人数などに変化がない。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・9月に入ってから、やや求人数が増加している。しかし、それに対応する紹介や派遣の人材が不足している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・内定をもらった学生が最終的に応諾しないため、企業からの求人が長く続いている。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-